

伝統的な和菓子を愛する研究者が目指す、 先進的かつ国際的な学びの場

名古屋工業大学
工学部社会工学科
工学部創造工学教育課程
大学院工学研究科社会工学専攻
建築・デザイン分野

北川 啓介 研究室

KITAGAWA KEISUKE

北川 啓介 教授 博士（工学）

1996年3月：名古屋工業大学工学部社会開発工学科建築学
コース卒業

1998年3月：同大学大学院工学研究科社会開発工学専攻
博士前期課程修了

2001年3月：同大学大学院工学研究科社会開発工学専攻
博士後期課程修了、博士（工学）

同年4月：同大学工学部助手

2003年4月：同大学大学院工学研究科講師

2005年4月：同大学大学院工学研究科助教授

2007年4月：同大学大学院工学研究科准教授

2017年8月：米国・プリンストン大学客員研究員

2018年4月：名古屋工業大学大学院工学研究科教授

同年12月：同大学大学院工学研究科建築・デザイン分野長

2019年5月：日本建築学会理事

2019年11月：株式会社LIFULL ArchiTech(名工大発ベンチャー)
代表取締役社長

2020年4月：名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻長

専門分野 | 建築意匠、建築設計、建築計画、都市計画

研究テーマ | 建築物は物質的な存在であり、人と人が意思伝達する際の言葉で表現しきめることは極めて難しい。そうした中、建築家や設計者が自身の建築に向かう思想をなんとか一般的な単語の意味を増幅させて言葉で伝えることに着目しその多義性の分析を進める。そして建築に関わる人々の営みを原初的なメカニズムから読解し応用し、新しい建築物の発想に活かしている。



未来を 創る 研究室

総研
Presents
Vol.05

建設業の次世代を担う
大学研究室訪問

建設物価調査会の総合研究所では、次世代を担う若者の育成・支援や様々な研究を通して建設事業の健全な発展と活性化に寄与する研究支援プロジェクトを行っています。その一環として、広く建設に関係する大学の研究室を紹介します。

*本取材は2020年12月初旬に行いました。写真撮影のため、一時的にフェイスガードを外している場合があります。

「明日にでも 和菓子職人になりたいですよ」

名古屋工業大学 北川啓介教授は、実家の和菓子屋で職人になるつもりで、全国を旅して和菓子を食べ歩く高校時代を過ごした。しかし、和菓子以外の価値観も知っておくべきと思い、実家から一番近かった名工大の建築へと進学した。卒業後は和菓子職人になるつもりでいたが、建築も和菓子と同様に、歴史や文化や人間に深く関わることに惚れこみ、恩師からのご縁もいただき、一時は、大学を拠点に世界で活躍する建築家を夢見ていた。

しかし、転機は突然訪れた。2011年3月、東日本大震災が発生した。新聞記者と共に被災地を回った際に、石巻の避難所で出会った男の子の「どうして仮設住宅を建てるのに何カ月もかかるの？」という何気ない一言が胸に突き刺さった。被災地から帰ってきて、教壇に立っている間も、その一言が頭から離れない。在来工法を教えることも大事だが、それよりも今、本当に教えるべきことがあるのではないかと。避難所の多くは体育館や市民会館など、人が住むための建築物ではない。世界中を見渡しても、母国を追われた難民のように、家にも住めない人たちが多く存在する。彼らのためになにか貢献できないか。彼らのための住宅を、もっと簡単に建てられないだろうか。こうして、最近話題の「インスタントハウス」の開発が始まった。発泡ウレタンを構造材とし、白い和菓子のようなデザインの中にも北川イズムが感じられる。

若い頃から旅好きで、ニューヨークの建築事務所での勤務経験もある北川教授だからこそ、異文化に触れることで様々な見識を深めてもらいたいと、研究室の学生には海外留学を推奨している。同様に、海外からの留学生も多く受け入れている。その影響か、OB・OGには、現在海外で活躍する人材も多い。国際的な雰囲気にも慣れて北川研究室を希望する学生が多いのも頷ける。

多方面で活躍されている北川教授が和菓子職人になれる日は、近い？



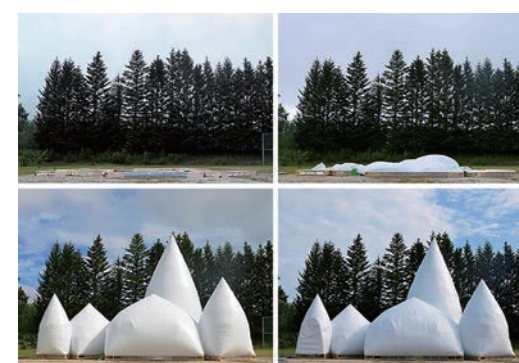
1



2



3



4

1 | 歴史の長い名古屋工業大学は名古屋市のほぼ中央に位置している。

2 | アットホームな雰囲気を大切にしたい北川研究室の学生スペース。

3 | 学部3年の現代建築論の講義では毎夏に多数の履修生を海外研修へ引率。

4 | 財団との共同研究にて北海道で北川研究室の学生15名と建設することも。



1 インスタントハウス

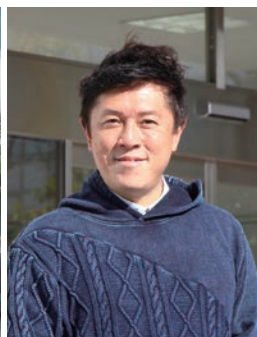
北川啓介研究室での研究開発をもとに、2019年に名工大発ベンチャーとして起業した株式会社 LIFULL ArchiTech からの事業化後、国会の予算委員会でもこの研究に関する紹介があり菅義偉内閣総理大臣が感想を述べられた他、群馬県のJR上越線土合駅や福岡県の唐泊キャンプ場での実証実験が様々なメディアに取り上げられている。北川教授はこの事業の目的を家がない人への寄付としており、先進国でいくつかのインスタントハウスが建った収益で、全く同じ大きさとかたちのインスタントハウスを家がない人へ届けていき、地球上の人々がインスタントハウスでの住まいを通して交流を深められたらと語る。

最近の研究テーマ



3 世界中の地域の防災能力向上

日本をはじめ、世界の全ての国と地域で、非日常の事態でも実現する日常に近い住まいと住まい方が広がることを第一と考えている。2011年の東日本大震災後の復興に向けた北川啓介研究室からの東北での活動の経験をもとに、2014年からJICAの草の根支援事業のプロジェクトマネージャーとして、一年中、台風・高潮・地震などの自然災害の影響を受けてきたフィリピンの市民と大学や行政とが連携した防災能力向上の教育に取り組んできた。災害後に即座に地元住民で建設できるインスタントハウスもフィリピンで構想を深めた。



2 食べられる建築

2017年から米国・プリンストン大学に在籍中に国連と打ち合わせた際に、難民向けの仮設住宅では、いざというときにすぐに逃げられるような現地に置きっぱなしでも良い素材のみでの建設が理想的である、と知って以降、人や動物や昆虫が食べて消化できる生分解性の素材のみで建設できるインスタントハウスの研究開発に取り組んでいる。



指導方針

「逆照射」と「ボーダーレス」

光の当て方を変えるだけで、モノの見え方、認識のされ方は変わってきます。地球の裏側からでしか見られないモノもあることを知るためにも旅を勧めますし、そのきっかけを提供してあげたいと思います。まずは知る楽しさを知ってほしい。国や時代、古い常識や慣習などを飛び越えて、変幻自在、自由自在に、自分らしく建築を考えられる環境を提供するということは常に大事にしています。

学生インタビュー

*「学年」は取材時のものです。



三澤 歌月（みさわ かづき）
学部3年 愛知県出身
趣味…大学のサークル活動ではアメフト部の広報を担当しています。

外でどんなにイヤなことがあっても、帰宅したら忘れちゃう家が作りたい

建築を学ぶきっかけとなったのは、母親の影響が大きいんです。私の家は、母・姉・私の3人の母子家庭でしたが、特に寂しいと思うことはなく育ちました。それは、私が大好きな家がとても温かい家庭だったからだと思います。将来はそういった温かみのある環境を設計できるような建築士になりたいと思います、建築を志しました。

今は、福祉施設に関する建築を研究しています。児童福祉施設を退所した子が、独り暮らしをする前に一時的に生活する自立支援施設です。生活環境を提供する場合、ハード部分だけではなく、温かみを創出するソフト部分も考える必要があると思っています。それを建築に落とし込むのが非常に難しいと感じていますが、将来につながるので、やり甲斐があります。



保崎 慎一朗（ほさき しんいちろう）
博士前期課程1年 愛知県出身
趣味…最近は体調に気を付けて和食の自炊にハマっています。

将来は、自分で設計した山のコテージにみんなを招待したい

中学生の頃から建築に興味がありました。実家を設計したのが親戚の人だったという話を聞き、自分の家を自分の手で設計することに憧れ、建築の道を選びました。

北川研究室の積極的な海外での研究に魅力を感じています。フィリピンでの留学では、エリア別に多くのコミュニティを回り、住まいに関する優先度をヒアリング調査しました。暮らした方や考え方など、様々な価値観を持ったコミュニティ同士の関わり方によって地域社会が形成されることを知り、今までの自分の視野が狭かったことを実感しました。次は住民参加型の街づくりをしているアムステルダムに行ってみたいです。

将来は住宅デベロッパーへの就職を希望しています。住まう人が誇りを持てる安心・安全な街づくりをするのが夢です。



松本 佳津（まつもと かつ）
博士後期課程1年 愛知県出身
趣味…今はコロナ禍で難しいですが、旅先の街でのランニング（通称・旅ラン）

100歳まで元気に過ごせる家人の究極の幸に寄与できる研究

愛知淑徳大学で教授としてインテリアデザインを教えています。知見をより深めるために、改めて建築デザインを学術的に学びたいと思い、北川研究室に入りました。

100歳まで生きることが不思議じゃない長寿・高齢時代になり、「高齢者」と言えば、すぐに「介護」と考えられがちですが、元気で自立した高齢者も多くいます。いくつになっても自宅で過ごすことができるインテリアの在り方について研究をしています。

私は元々が美大出身なので、建築工学的な思考はとても新鮮です。毎日新しい発見や発想に出会えて、とても刺激を受けています。仕事をしながらの勉強は大変ですが、日々やりたいことが湧いてきます。時代の節目を案しながら、自分の可能性を試したいと思っています。

最前列の女装が北川教授。「学生ファースト」「初心忘るべからず」が教訓。



毎春に多くの博士と修士と学士と留学生が北川研究室から旅立つ学位授与式。

